



地域の未来を担う人材を育成する深川東高等学校と深川西高等学校は、本市にとってかけがえのない存在です。その魅力や社会で働く今の思いについて、両校の卒業生にじっくり語っていただきました。それぞれ進路や職種、もちろん性格も異なり、多様な生き方をしていますが、共通していることがいくつかあります。それは、「働き出して数年が経ち、仕事のおもしろさや社会の厳しさ、そして誰かのために自分ができることに気が始め「自分らしく成長を楽しんでいる」ということでした。

卒業生が伝えたいホントのトコロ 市内公立高校からつかった僕らの今

西高 01
→23歳(平成28年卒業)
→普通科(看護系進学)
→深川市立病院勤務

**夢のために勉強したから今がある
目の前の患者さんと心を通わせて**

東高 01
→21歳(平成30年卒業)
→生産科学科
→農業に従事

**あふれだす若き農業者の思い
憧れの父と共に汗を流す充実の日々**



ちさと
鈴木千聖さん
Chirato Suzuki

誰かのために役立ちたいと思い、中学生の頃から看護師への就職を考えていた鈴木さんは、進路希望の受験科目に合わせた授業が選択でき、看護系の進路にも強い西高へ入学しました。

充実した学習環境と仲間との存在

西高の学習環境について尋ねると「看護師になるのは簡単ではないので、入学時は自分の学力に不安を感じていました。苦手だった数学と英語は生徒のレベルに合わせた少人数指導があったおかげで、しっかりと勉強についていけて、勉強の楽しさを感じるようになりました」とその充実ぶりを教えてくれました。

また、進路別講演会や職場体験を通して、進路への認識や動機が明確になっていったとのこと。「病院や高齢者施設などを訪問したとき、思っていたよりも高齢の方や認知症

「幼いころから農業を身近に感じて育ち、中学生の頃には農業の道を志しました」と語る吉田さんは、代々農家を営む仙台の家で生まれ育ちました。拓殖大学北海道短期大学の卒業生である吉田さんの父が北海道で農業をするために、家族で深川に移住してきたそうです。

実践と幅広い経験で深める農の道

東高の生産科学科で過ごした日々を振り返り「さまざまな実習や作業で本当に充実した毎日でした。入学して間もない頃から東高の敷地内にある畑などを利用して、1年を通して実践的な農業を学んでいきます。農作業は経験すれば誰でもできるかもしれないませんが、病害虫や肥料についての知識など、より良く栽培するために必要なことは自分だけでは学べません。なぜその作業が必要かを学



たかお
吉田隆雄さん
Takao Yoshida

生産科学科では、地域と関わる機会が多いほか、生産から加工まで幅広く学びます。その経験について何うと「季節ごとに実施する即売会には、地域の方が毎回楽しみに足を運んでくれました。自分たちが大切に育てた野菜や花などが、人にとれど喜ばれるのかを実感することができました。また、販売用にそばやうどん、パンなどを粉から加工する授業があり、それが自分たちの食糧にもなります。不揃いだったり、つながついたりすることもありますが自分たちで作ったものは美味しく感じられて、その時間がいつも楽しみでした」と懐かしそうに話します。

また、生産科学科の生徒全員が加入する農業クラブで、吉田さんは3年生の時に会長を務めました。「会長は東高農業クラブの代表として、各地で開催されるイベントや発表会などに参加します。そこで他の農業高校の生徒と知り合うことができ、将来農業をする上で大切だ



び、土の上での実践を繰り返すことで知識や技術がすっかり身に付きます」と力説します。

現在、新型コロナウイルス感染症が流行していることもあり、鈴木さんが勤務する病棟では、患者さんになるべく住み慣れたところで生活できるように、自宅での療養を希望する方への退院支援に力を入れているそうです。「酸素療法をしている方や口から栄養が取れない方など、生活上で誰かの支援が必要な方が退院するためには、何が足りなくて何が必要なのか、さまざまな職種の方と協力し検討していきます。資格がなくても唯一本人への医療行為が

今日も患者さんの笑顔のために

「患者さんは入院されて辛い立場です。私が痛みなどを経験することはできないので、本人やその家族だったら、どのような声掛けをしてもらいたいのかを想像しながら患者さんに関わっています。患者さんから『担当してくれてよかった』あなたのおかげで手術することを決めた』などと言ってもらえたときは、この方の役に立つことができたんだなと感じ、また頑張ろうと思えます」と心の内を明かしてくれました。西高を経て夢を叶えた鈴木さんは、これからも地域の方に寄り添った看護を続けていきたいそうです。

の方が多くて驚きましたが、一人ひとりに合わせて意思疎通をしている姿を見てプロの看護師のすごさも改めて感じました」と話します。

こうした過程を経て、目標を実現するため意欲を高めていったそうです。「看護系を選択する同級生も多かったのですが、放課後は進路室などに集まって勉強や集団面接の練習をしていました。互いにライバルかもしれないませんが、同じ道を志すみんなと一緒に取り組むことで、一人より頭に入ったり、教え合えたりするなど励まし合って頑張ることができました」と振り返ります。3年間しっかり勉強に打ち込んだ鈴木さんの努力は実を結び、深川市立高等看護学院への指定校推薦を得ることができたそうです。



できる家族の方への指導が必要なる場合が多いのですが、病院のように完璧を求めるのではなく、家族の方が無理なく処置を続けていけるよう、ここだけはしっかりと守ってほしいという部分を重点的に伝えるよう心掛けています。そんな過程を経て無事に患者さんが退院できて喜んでくれると、それだけで私たちがもううれしいです」とやがいが話をしてくれました。

「患者さんは入院されて辛い立場です。私が痛みなどを経験することはできないので、本人やその家族だったら、どのような声掛けをしてもらいたいのかを想像しながら患者さんに関わっています。患者さんから『担当してくれてよかった』あなたのおかげで手術することを決めた』などと言ってもらえたときは、この方の役に立つことができたんだなと感じ、また頑張ろうと思えます」と心の内を明かしてくれました。西高を経て夢を叶えた鈴木さんは、これからも地域の方に寄り添った看護を続けていきたいそうです。

と想っていた同年代の方たちとのつながりの輪を広げていきました。志の高い彼らは今でも情報交換をし合える貴重な仲間です」と活動から生まれた仲間の存在を教えてくださいました。

目の前の畑から広がる未来

就農から4年目の現在、吉田さんは父と共にキュウリやミニトマトなどを生産しています。作物が元気に実っているのを見て幸せを感じ、作業後に辺りの緑が赤く染まってくる風景を見渡し「今日も頑張ったな」と達成感を感じる充実した毎日を送っているといいます。

共に汗を流す父の存在について「20代での代わりを目指して、父から知識を叩き込まれている日々です。高校から培ってきたものがあるので、基本的なことは理解して取り組んでいるが、農家として長年勉強し経験してきた父にはまだまだ敵わない。対等に農業経営ができるように成長していきたいです」と話し笑顔を見せてくれました。

そんな若き農業者が思い描く展望について尋ねると「農業規模の拡大や直売所の整備にも興味がある。また、自分のように農業に興味がある方にこの楽しさを伝えられる環境をつくり、ここから就農する方が増えていってくれたら嬉しいですね」と新たな夢を語ってくれました。

「患者さんは入院されて辛い立場です。私が痛みなどを経験することはできないので、本人やその家族だったら、どのような声掛けをしてもらいたいのかを想像しながら患者さんに関わっています。患者さんから『担当してくれてよかった』あなたのおかげで手術することを決めた』などと言ってもらえたときは、この方の役に立つことができたんだなと感じ、また頑張ろうと思えます」と心の内を明かしてくれました。西高を経て夢を叶えた鈴木さんは、これからも地域の方に寄り添った看護を続けていきたいそうです。

商業を学んだことで広がる世界 自分のペースで成長を続けることが大切



徳武さんは高校生の頃、将来のイメージがなかなか持てず悩んだ時期があったのですが、地元企業などへの

東高 02
→21歳(平成30年卒業)
→流通経済科※
→北空知信用金庫勤務



きょうか
徳武 香花さん
Kyoka Tokutake

東高の流通経済科(現総合ビジネス科)で商業を学んだ徳武さんに、就職から4年目となる現在の心境を伺うと「大切なお金を預かる立場ですし、給料日などは特に忙しく気は抜けませんが、毎日の業務をこなしていくにつれて、日々確実に成長していることの手応えを感じられます。落ち着いた日々を過ごしたいと思っている私には向いている仕事です」と教えてくれました。

徳武さんは高校生の頃、将来のイメージがなかなか持てず悩んだ時期があったのですが、地元企業などへの

西高 03
→23歳(平成28年卒業)
→普通科(私立大学進学)
→きたそらち農業協同組合勤務

しゅうや
稲田 集哉さん
Shuya Inada



頻繁に事務所を訪れる農家の方々と談笑する姿から、採用2年目とは思えないほど、稲田さんが地域に馴染んでいる様子が伝わります。「明るいうことが自分の唯一の取り柄ですから」と大きな声で笑う稲田さんは、西高野球部のキャプテンとしてチームをまとめたスポーツマンです。西高を志望したきっかけについて聞くと「幼少期から西高野球部OBの父に連れられ試合観戦をしていたので、馴染みがありました。地域の野球仲間たちが西高を志望している」と知り、みんなとここで野球がしたいと思ったんです」と話します。

私をこんなに大きく育ててくれた地元へ 愛のある「恩返し」実行中!

頻繁に事務所を訪れる農家の方々と談笑する姿から、採用2年目とは思えないほど、稲田さんが地域に馴染んでいる様子が伝わります。「明るいうことが自分の唯一の取り柄ですから」と大きな声で笑う稲田さんは、西高野球部のキャプテンとしてチームをまとめたスポーツマンです。西高を志望したきっかけについて聞くと「幼少期から西高野球部OBの父に連れられ試合観戦をしていたので、馴染みがありました。地域の野球仲間たちが西高を志望している」と知り、みんなとここで野球がしたいと思ったんです」と話します。

「農家の方や職員に頼られる存在」という自身の理想像に近づいたため「経験や知識を上司の方から受け継ぎつつ、仕事が落ち着く冬季には参考文献やデータなどを基に、知識を蓄えます。そして誠実さを大事にしたい。それがなければ人はついてこない」と西高野球部で鍛えられた精神で、地道な成長を積み重ねることとした。

「農家の方や職員に頼られる存在」という自身の理想像に近づいたため「経験や知識を上司の方から受け継ぎつつ、仕事が落ち着く冬季には参考文献やデータなどを基に、知識を蓄えます。そして誠実さを大事にしたい。それがなければ人はついてこない」と西高野球部で鍛えられた精神で、地道な成長を積み重ねることとした。

野球漬けの毎日を過ごしながらも、公務員を目指し、学校が行う勉強会や講演会などにも参加していたそうです。そんな中、努力が認められ、札幌大学からスポーツ推薦の話が舞い込みます。「親からは『野球を続けたいんじゃないか』とアドバイスをもらい、進学を決めました。本当にありがたい話です」と当時を振り返ります。大学で迎えた進路選択の時期に稲田さんは、これまで



西高 02
→25歳(平成27年卒業)
→普通科(国立大学進学)
→ホシザキ北海道(株)勤務

ひらばやし
平林 優哉さん
Yuya Hirabayashi



平林さんは、就職するまで機械に触ったことがなく、製品の電気回路図や冷える仕組みを一から勉強したそうですが、西高で学んだ基礎が活かされたと感じたそうです。「会社には充実した研修制度はありませんが、自分でもしっかり勉強しないと現場で製品と向き合ったときに正しい判断をすることができません。西高で学習した化学や物

こうした学びは現在の平林さんにもしっかりと根付いているようです。「先輩や上司の方は、私を育てるために厳しい指導の下、仕事を任せてくれますし、困ったときにはフォローもしてくれて、人間的にも技術的にも尊敬しています。私にも後輩ができたときには、大切なことを伝えていけるよう、自分の技術や仕事の幅を広げていきたいと思っています」と今後の抱負を語ってくれました。

こうした学びは、学校行事の中でも得られたそうです。「コーラス大会や学校祭などは、生徒が主体となりみんなで力を合わせて臨むので、いい結果が出たときの感動は忘れられません。学年の隔てがない縦割り連合ごとに活動するため、上級生と下級生が関わる機会が多く、3年次には仲間を引っ張る立場も経験させてもらいました。人として成長できたと感じています」とその魅力を明かしてくれました。



理、数学などの基礎的な知識が仕事に活かせることもあり、なにより目標に向かって主体的に努力する姿勢は、西高で身に付いたものだと思っています」と話してくれました。

ICT化が進む予感を信じて学んだ技術 地域の未来を支える設計を目指す

東高の情報処理科(現総合ビジネス科)を卒業した細川さんは「現在は人工知能や仮想現実の存在が当たり前になりつつありますが、当時中学生ながら、これから生活や仕事をする上で、ICT(情報通信技術)の重要性はさらに増していくんだろうなと感じていました」と進路選択の理由を教えてくださいました。また、細川さんは東高での学習の様子について「仕事でよく使うソフトの学習や検定対策の授業で得た知識は仕事にも役立っています。ワープロ・パソコン部にも所属し、より早く正確に文字を打てるような訓練も重ねていました」と振り返ります。



細川さんは自身について「学生の頃から目立つ方ではないですが、人を後ろから支える役割が好きなんです」と話します。地域の方が生活や仕事をする上で不可欠な道路や施設、その整備を行う際に基礎として必要なのが設計図です。細川さんの仕事はこのまちの未来を支えています。

就職から3年目となる現在、農地の区画整理に伴う排水設備などの整備に携わっているとのこと。「地元の方の要望を聞き取り図面を完成させていきます。今はまだ先輩や上司の方に付いて仕事を覚える立場で、一人前になるまで10年とも言われる業界ですが、いずれは自分なりの設計をしていきたいと思っています」と真っ直ぐな思いを明かしてくれました。

だとも聞き、東高で培ったパソコンの知識も活かせるかなと感じました」と同社への思いを強め、採用をつかんだそうです。仕事に感じる魅力について伺うと「例えば道路には排水のために傾斜がついていますが、その仕組みや在り方に理由があることを理解していることがおもしろいんです」と教えてくれました。

東高 03
→21歳(平成31年卒業)
→情報処理科※
→総合建設コンサルタント
デザイン設計(株)勤務

たくる
細川 卓琉さん
Takuru Horokawa



東高の情報処理科(現総合ビジネス科)を卒業した細川さんは「現在は人工知能や仮想現実の存在が当たり前になりつつありますが、当時中学生ながら、これから生活や仕事をする上で、ICT(情報通信技術)の重要性はさらに増していくんだろうなと感じていました」と進路選択の理由を教えてくださいました。また、細川さんは東高での学習の様子について「仕事でよく使うソフトの学習や検定対策の授業で得た知識は仕事にも役立っています。ワープロ・パソコン部にも所属し、より早く正確に文字を打てるような訓練も重ねていました」と振り返ります。

※商業分野の流通経済科と情報処理科は、令和2年度に「総合ビジネス科」に学科転換しました。

高校概要



- ・学 科 普通科
- ・所 在 地 深川市西町7番31号
- ・電話番号 ☎23-2263
- ・ホームページ <http://www.hukagawanishi.hokkaido-c.ed.jp/>

深川西高等学校は、北空知で唯一の全日制普通科高校です。本校では、進路希望に合わせて対応できる「類型(コース)科目選択制」などを導入し、一人ひとりが将来の目標を実現するためのサポートをしています。行事では、生徒会を中心に生徒が主体となり企画・運営を行っており、3大行事であるコーラス大会および学校祭、体育祭の取り組みを通して、自主性や協調性を向上させるとともに絆の大切さを体感することができます。さらに、全校生徒の約7割が勉強と両立しながら高いレベルの部活動に参加し、充実した学校生活を送っています。

主な指定校推薦枠

- 4年制大学・短期大学
北海学園大学・北星学園大学・札幌学院大学・札幌大学・北海道医療大学・札幌保健医療大学・北海道化学大学・東京農業大学・拓殖大学北海道短期大学ほか
- 看護系
深川市立高等看護学院・砂川市立病院付属看護専門学校・滝川市立高等看護学院・深川医師会付属看護学院ほか
※令和3年度入試の実績

主な進学・就職先

- 進学
小樽商科大学・室蘭工業大学・北海道教育大学釧路校・弘前大学・山形大学・公立千歳科学技術大学・釧路公立大学・名寄市立大学・北海学園大学・北星学園大学・天使大学・藤女子大学・拓殖大学北海道短期大学・北海道立旭川高等看護学院・深川市立高等看護学院ほか
- 就職
北海道職員・深川市職員・北空知信用金庫・きたそらち農業協同組合・深川土地改良区・厚北会吉本病院・カンパニオホテルズ(株)・(株)樋口組・日本郵便(株)ほか
※過去3年間の実績

深川東高等学校

- ・学 科 生産科学科(農業)/総合ビジネス科(商業)
- ・所 在 地 深川市8条5番10号
- ・電話番号 ☎23-3561
- ・ホームページ <http://www.fukatoko.hokkaido-c.ed.jp/>

深川東高等学校は、農業と商業の各分野に特化した実践的な知識と技術を学ぶことができる専門高校です。農業分野の「生産科学科」では、農産物や草花の生産や管理から販売までの一連の流れを学び、6次産業化に対応した知識を得ることができます。また、令和2年度に新たに生まれ変わった商業分野の「総合ビジネス科」では、経理や経営についてコンピュータを活用した分析能力を養う学習により、ビジネスに必要な知識と技術を総合的に学び、さらに実践的な販売実習などを体験することで、地域社会で活躍する力を身に付けることができます。

- 4年制大学
北海学園大学・札幌大学・札幌学院大学・北翔大学・酪農学園大学・北海道情報大学・北海道科学大学・星槎道都大学・旭川大学ほか
- 短期大学
拓殖大学北海道短期大学・北星学園短期大学・札幌国際大学短期大学部・北翔大学短期大学部・國學院短期大学・旭川大学短期大学部ほか
※令和3年度入試の実績

- 進学
北海学園大学・旭川大学・拓殖大学北海道短期大学・旭川大学短期大学部・深川医師会付属看護学院・旭川大学情報ビジネス専門学校・旭川福祉専門学校・大原法律公務員専門学校・札幌工科専門学校ほか
- 就職
北空知信用金庫・きたそらち農業協同組合・北いぶき農業協同組合・(株)ルーラルエンジニア・清水物産(株)・(株)健康会・旭川トヨタ(株)・(株)壺屋総本店・宗教法人北海道神宮・日成建設(株)・厚北会吉本病院・デザイン設計(株)ほか
※過去3年間の実績

東高では、さまざまな体験や実践的な授業が多く、地域や社会が身近になる。座学だけではないので、学びが幅広いのが東高の魅力!



この先、不安なことや難しいこともあると思うけど、後悔しないよう自分から動くことが大事。東高は学科ごとに特色があるので、新しい自分を見付けられるはず!



東高

生産科学科では、実践的な農業だけでなく、加工も学ぶので、進路も幅広い。料理人やパン屋に興味がある人だとしても「食材」の基本は農業。それを学ぶことは間違いなくいい経験になるぞ!



中高生のみんな! 東高・西高で、なりたい自分は叶えられる!



あなたも西高にカモン!

勉強も頑張れるし、部活も頑張れる。自分のペースで成長することができて、西高の学校生活は楽しい!僕の親友である島大星(歌手・タレント)のようにビッグになろうぜ!

社会で必要な力は西高で身に付くんです。コミュニケーション能力はどこにいても重要。今のうちに磨いておきましょう---



西高

なりたいたい自分は簡単には叶いません(笑)そのために、興味のあることや挑戦したいと思ったことは自ら経験しにいて欲しい。西高で頑張ったら視野も広がるし、好きな仕事を選べるようになるかもしれないよ!



両校への市の支援

市では、両校が行う学校の魅力づくりや、生徒の夢と目標の実現に向けた取り組みに対し、さまざまな支援を行っています。

【これまでに行った主な支援内容】

- 各種模擬試験の受験料や各種資格取得試験の受験(検)料の助成
 - 資格取得のための研修や実習に伴う費用の助成
 - 遠方から通学する生徒に対し、鉄道・バス通学定期券購入代金の一部助成
 - 部活動の遠征費への助成
- ※令和4年度においては、内容が変更になる可能性があります。

問合せ 学務課管理係(☎26-2332)